

CASBEE新潟 | 評価結果



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版

■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.1)

1. 建物概要

建物名称	内山熔接工業 第2期工事	
建設地	西蒲区 上小吉653-1外	
用途地域	無指定地域、防火地域指定なし	
建物用途	事務所、工場	
竣工年	2010年12月 予定	
敷地面積	11,418.68 m ²	
建築面積	3,387.82 m ²	
延床面積	3,443.92 m ²	
階数	地上1階	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2010年9月17日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{54}{48} = 1.1$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.4		バリアフリー	3.0
			維持管理	3.5
			更新性	3.8
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.1		耐震・免震	3.0
			信頼性	3.2
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物の熱負荷抑制	5.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.3		節水	4.0
			リサイクル材の使用	3.0
			再利用可能性向上	3.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	3.5		生物環境の保全・創出	3.0
			敷地内温熱環境の向上	4.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	3.0		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮・快適性の向上	3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

田園地域に立つ工場であり、緑化を行うと共に舗装面積を必要最小限に抑えることで地域環境に配慮した計画とした。
また、擬音装置や高効率の機器を採用することで省エネルギー・資源保護に努める計画とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

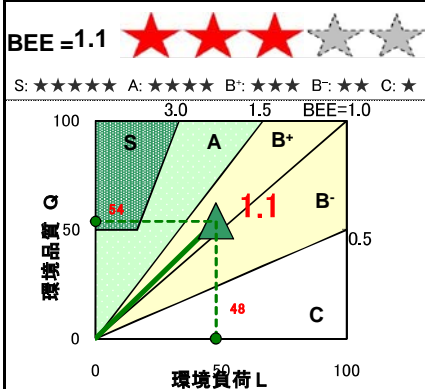
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE[®]新潟

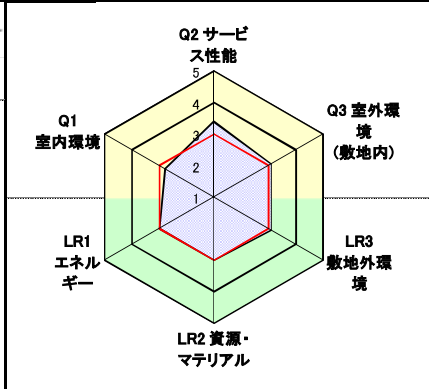
評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.1)

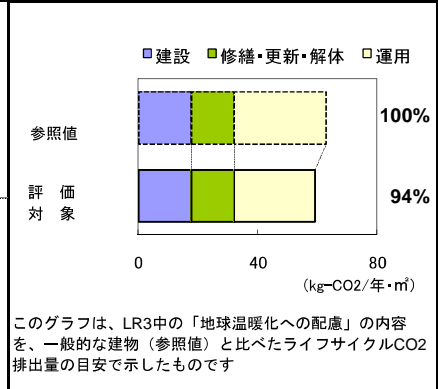
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



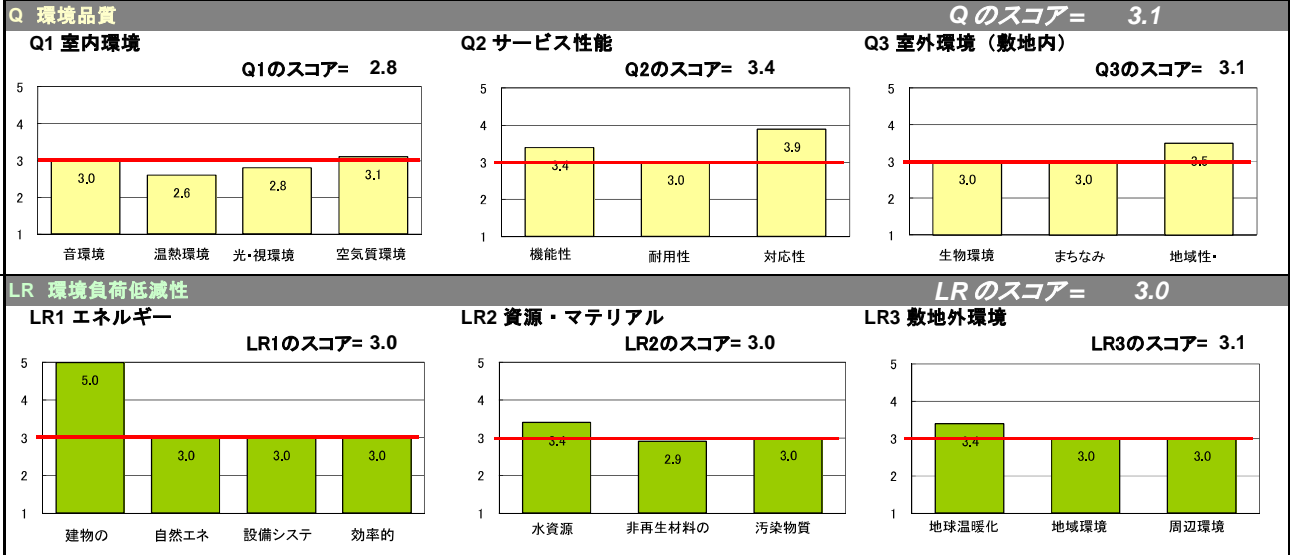
2-2 大項目の評価(レーダーチャート)



2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合 工場という用途から、機械の入替時に他への影響が小さくなるよう設備の更新性に配慮した計画とした。 また、作業の方が快適な環境下で作業が出来るよう配慮した。	その他 0
Q1 室内環境 外皮に断熱材を全体で充填することで、温熱環境及び外部への遮音性に配慮した。 また、シックハウス等の原因となる化学汚染物質の発生を低減するよう材料に配慮した。	Q2 サービス性能 十分な広さ、高さを持つ空間を計画し機械や設備の更新が容易に行えるよう計画した。
LR1 エネルギー 建物の断熱性能の向上を図るとともに、高効率の器具を採用することで省エネルギーに配慮する計画とした。	LR2 資源・マテリアル 水資源の有効利用のため、節水器具や擬音装置の採用をする計画とした。
	LR3 敷地外環境 周辺道路への関係車両の滞留が起きないように、敷地内に十分な車両スペースを計画した。 また、周囲に田畑が広がる地域のため光害がおきにくいよう配置・方向に配慮する計画とした。
	Q3 室外環境 (敷地内) 舗装面積を必要範囲で抑えることで既存緑地を活かす計画とした。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される